

片側の腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術をする際に、反対側も予防的に手術する必要があるかどうかに関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年9月14日～2024年12月31日

〔研究課題〕

片側 laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure (LPEC) 時の対側予防手術に関する検討

〔研究目的〕

これまで行われている腹腔鏡下での片側の鼠径ヘルニアにおいて、反対側のヘルニア門に対する予防的な手術の必要性の有無を明らかにすることを目的とします。

〔研究意義〕

近年、小児鼠径ヘルニアに対して腹腔鏡下手術が標準術式とされています。片側の鼠径ヘルニアの場合、術中に対側のヘルニア門の開大を認めることがあり、多くの施設では無症状の場合でも予防的に手術がなされています。しかし、この予防的手術は過大侵襲との考えもあり、一致した考え方は現在もありません。

手術時の対側のヘルニア門の大きさや形態を検討し、術後の対側発症のリスクを明らかにすることは、反対側の予防的手術を必要な症例だけに施行することによって、過剰な手術処置を避けることができるようになり、適切な治療につなげられる意義があります。

〔対象・研究方法〕

2014年1月から2021年12月までの8年間に片側の鼠径ヘルニアの診断で帝京大学医学部附属病院に入院し、腹腔鏡手術を受けた患者さんの、年齢、性別、反対側のヘルニアの開存の有無、大きさ、術後の反対側の発症の有無等に関するデータをまとめます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院外科

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など患者さん個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんが特定できる個人情報は利用しません。患者さんからご自身の情報開示等の請求は個々に対応いたします。また、研究終了後にデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管後に廃棄いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：外科学講座小児外科グループ 講師 細田利史
住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211（代表）〔内線 7192〕